

コンピュータができるまでの準備期間

長い年月をかけてコンピュータの着想を得た。コンピュータができるまでに従来とは異なる発想が必要だった。

組合せからの活用方向の発見

確かなのは『互いの関わりのない事象、次元の合成によって革新がおこる』ことだ。「けっして」と言っているほど、同じ事象では革新は起こらない。（「革新」の意味定義による。改善は同分野内で起こる。）他分野の影響、他商品、他科学が引き金になって、別のものを産み出してくる。

◆B.C.1500年頃、すでにロクロが使われていた。ロクロが糸紡ぎに使われたのはA.D.1000年頃だと言われている。最古の糸紡ぎの絵が描かれたのが1230年頃だ。

2500年の間、糸紡ぎとロクロの組合せに思いが至らなかった。

◆蒸気機関の前身はB.C.70年頃にあったそうだ。1664年、ニューコメンが鉱山の排水用、水汲み機として蒸気機関が作られた。ニューコメンまでには1600年を要した。これを1769年、改良し効率よくしたのがジェームズ・ワットだった。ジョージ・ステーブンソンが蒸気機関車として1814年に実用化した。別の環境下で石炭輸送が始まった。

蒸気機関が作られてから50年も過ぎて機関車になった。

知識活用の発展

◆1920年代、『知識社会』を最初に使ったのはマックス・シェーラーだった。

◆産業革命は、知識を道具、工程、製品に応用した。

◆生産革命では、知識を、仕事に応用した。

仕事の方法、組み合わせで展開された。

◆マネジメント革命は、知識を知識に応用した。

コンピュータを具体化する論理の発見

●二進法の素地は紀元前200年頃まで遡る。インド人のピンガラが数学的に韻律を表現したのが最初かもしれない。

1600年後半、ゴットフリート・ライプニッツが数学として二進法を発見した。

●1800年代、チャールズ・バベッジが、歯車を使って加減乗除を計算する方法を見つけた。

●1900年初頭、アルフレッド・ノース・ホワイトヘッド、バートランド・ラッセルらが論理はすべて数学的に表現できるとした。

●1900年初頭、オットー・ノイラートがデータを発見した。データ概念の誕生である。

●1906年、リー・デ・フォレストが三極真空管を発明した。

●第二次世界大戦時、アランチューリングがドイツ軍のエグニマ暗号機の通信を解読したのも計算可能性理論に基づく。コンピュータの前提となった。

●1947年コンピュータ産業が興る。

AIが知識、概念と思想を刺激し、社会進化、科学進化を促す。

過去 ↔ 現在

未来

AIは、如何に時間に関わるか。